

# 倒れていた認知症男性

# 警察保護せず死亡

昨年8月に横浜市で認知症の男性(当時85歳)が行方不明になり、東京都中野区で倒れているのを発見されたが、駆け付けた消防や警察は救急搬送や保護をせず、自決に死していったことが分かった。消防は「男性が搬送を辞退した」として現場を離れ、警察は「受け答えがしっかりしていて認知症の人とは思わなかった」という。認知症に詳しい専門家は「再発防止のため協議を」と呼び掛けている。(社会面に関連記事)

## 消防も搬送せず

消防庁や家族によると、男性は2014年8月19日夕、横浜市鶴見区のテイサ・ビルス施設から行方不明になり、家族は同日夜、神奈川県川崎市に駆け出した。21日午前10時20分ごろ、JR中野駅近くの路上で発見された。

消防は「搬送を拒んだ」という。救急隊は「搬送の必要性を認めたが傷病者(男性)が辞退」との項目にチェックを入れた不搬送の同意書に、男性の署名を添えて現場を離れた。

## 「大丈夫と答えた」



交番の警察官が駆け付けると、この男性が公衆トイレの床で倒れていた。警察官が救急車を呼ぶかと尋ねると「大丈夫」と答え、「家は1kmペースで持ち物や荷物が一致する液体情報を持つはずだ。名前と生年月日、性別が判明した。男性

の問いにも「大丈夫」を繰り返し、後に分かるが実際には「字だけ違う」店名を告げ、この時も警察官はそのまま現場を離れた。

6月、認知症の行方不明者の届出が急増し、警察は「保護に努める」という方針を打ち出した。警察は「保護に努める」という方針を打ち出した。警察は「保護に努める」という方針を打ち出した。

再発防止へ協議を  
認知症の人の見守り活動に詳しい認知症介護研究・研修東京センターの永田久彦は「専門職や地域の人たちには連携できなかった。この事実から具体的な対策を講じる必要がある」と指摘する。本人からは「本人から協議を」と呼び掛けている。

は最初の発見時に正確な氏名を告げていたが、警察は「たまたま推測した」という。警察は「たまたま推測した」という。警察は「たまたま推測した」という。

【編集後記】 山田隆雄